

令和８年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

（１）期日

令和８年５月３０日（土）～５月３１日（日）１泊２日

（２）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人 ４０人

②参加人数

１５人（高校生 ６人、大学生 ９人）

（３）講師等

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

報告：法人ボランティア３人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習「自然体験活動の安全管理」

講師：河本 潤（国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職）

講義「ボランティア活動の意義」

講師：平井 健（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

講義「青少年教育施設の現状と運営」

講師：安達 拓人（国立吉備青少年自然の家 所長）

講義「青少年教育における体験活動」

講師：徳永 充生 氏

（岡山市立少年自然の家 参事）

講義・演習「ボランティア活動の技術」

講師：平井 健（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

福永 萌（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職付係員）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」

説明：平井 健（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 参加者の年齢、学校、性別が様々になるように班分けをすることで交流の幅を広げた。
- ② 大学へ出向いて広報を行う際には、より具体的なイメージを持ちやすくするために、職員だけでなく法人ボランティアの大学生と共に説明を行った。
- ③ 法人ボランティアにアイスブレイクを担当してもらうことで、今後参加者がボランティアとして活動するときのイメージを持ちやすくした。
- ④ 講義・演習の「自然体験活動の安全管理」と「ボランティア活動の技術」については、ボランティアの立場としてかかわるときに、より具体的に体験して役立つ内容を取り入れたり、多くの活動プログラムを体験してもらえたりするような構成に変更した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

5月30日(土)		5月31日(日)	
8:30	岡山駅発(送迎希望者)	6:30	起床・洗面・清掃
9:30	受付	7:15	朝のつどい
10:00	開講式	7:30	朝食
10:30	アイスブレイク	9:00	講義
11:30	講義 「青少年教育施設における ボランティア活動①」	10:30	講義 「青少年教育施設の現状と運営」
12:30		12:00	講義・演習 「ボランティア活動の技術」
13:30	昼食 講義 「自然体験活動の安全管理」	16:00	説明 「青少年教育施設における ボランティア活動②」
16:30	宿泊についての説明	17:00	閉講式
17:15	夕べのつどい	17:15	解散
17:30	夕食	18:00	岡山駅着(送迎希望者)
18:15	説明 「ボランティアの意義」		
19:45	入浴		
21:00	情報交換会(希望者)		
22:00	就寝		

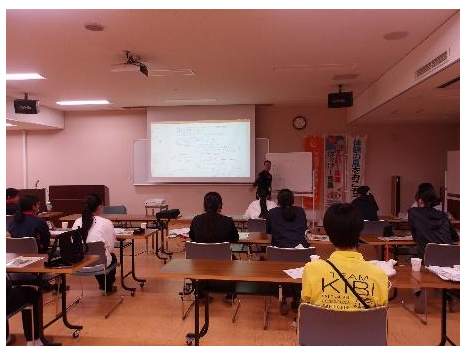
(2) 活動の状況



【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】



【講義・演習「ボランティア活動の技術」】



【講義「ボランティア活動の意義」】



【講義「青少年教育施設の現状と運営」】



【修了証の授与】



【ボランティア養成研修を終えて】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：：80% やや満足：20%

(2) 参加者の声

- ① 今まで体験したことのないことばかりだったので、実践的な学びが得られました。
- ② ボランティア活動の内容が知れてよかった。先輩ボランティアの方の話が聞かれてすごく参考になった。
- ③ 応急処置の方法を学び、いざという時の対処法を身に付けることができた。
- ④ これからの社会に出てからも、役立つことが学べたのがよかった。
- ⑤ 人と自然の大切さについて考えることができた。

(3) 成果

- ① 全員の参加者がボランティア登録を行うことができた。
- ② 班分けを工夫したことで、参加者の交流をより深めることができた。
- ③ 講義・演習の内容を精査したことで、ボランティアとしてかかわった際に役立つスキルや内容について、具体的に考えてもらうことができた。

(4) 今後の課題

- ① ほとんどの参加者が新規で法人ボランティアに登録し、教育事業に参加したいと意欲的になっている。しかし、当施設の教育事業数の減少により法人ボランティアの活躍する機会が十分には確保されていない。教育事業以外でも活動の機会を設けるなどの対策を講じる必要がある。また、法人ボランティア同士が繋がれるような場を設定していくことが必要と考える。
- ② 今回ボランティア広報をする時期が遅かったのか、締め切り間際になって申し込み者が増えていった。次回は、広報時期を早め、広報から締め切りまでの時間を長くするように検討したい。

担当：企画指導専門職 平井 健